

第6学年 国語科学習指導案

日 時： 令和6年 7月3日（水）

学 級： 6年2組29名

会 場： 6-2教室

指導者： 尾久第六小学校 6年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
～国語科「読むこと(説明的文章)」を通して～

1. 単元名 主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう。

教材名「時計の時間と心の時間」

2. 単元の目標

知識及び技能	・原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。((2)ア) ・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。((1)カ)
思考力、判断力、表現力等	・事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。((1)ア) ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。((1)オ) ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。((1)ウ)
学びに向かう力、人間性等	・進んで事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、学習課題に沿って自分の考えを伝え合うことができる。

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。((1)カ) ②原因と結果など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)	①「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。((1)ア) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。((1)オ) ③目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。((1)ウ)	①進んで主張と事例の関係を捉えて読み、学習課題に沿って自分の考えをまとめて発表しようとしている。 ②単元の学習目標を理解し、達成に向けて学習計画を立てている。 ③筆者の主張に対する自分の主張を伝え合い、考えを広げている。

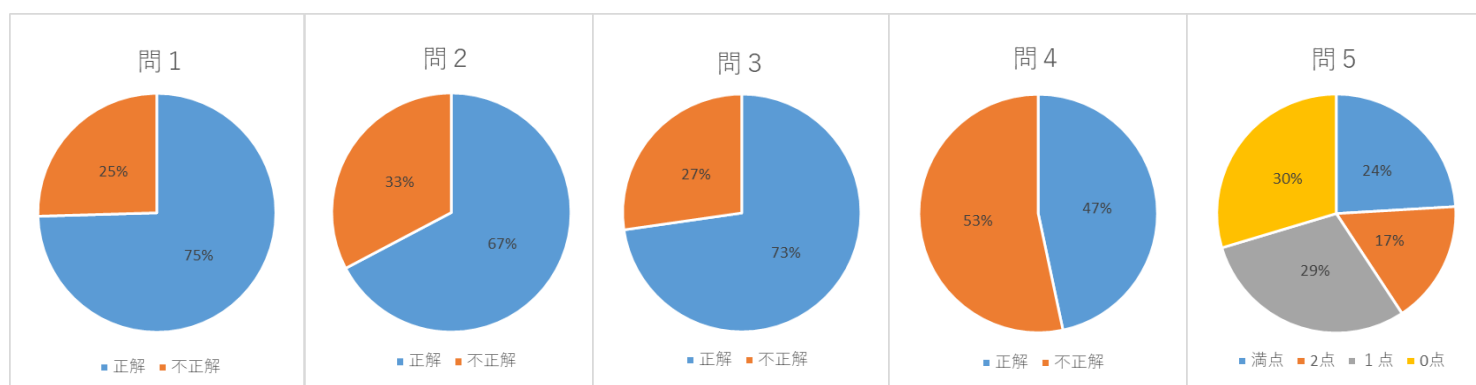
4. 児童の実態

本学年、本学級の実態を明確にとらえるために第5学年時に学習した説明的文章「見立てる」でレディネステストを行った。レディネステストでは以下の問いに取り組み、児童の力を見ている。

- 問1 「見立てる」の「中」にあたる部分はどこか。(文章構成を読み取る力)
問2 筆者は「見立てる」をどのようなことだと言っているか。(主題を言い換える力)
問3 筆者は事例によって何を伝えたいか。(事例の効果を読み取る力)
問4 筆者の考えはどの段落に書かれているか。(双括型の文を読み取る力)
問5 筆者の言いたいことを100字でまとめる。(要旨を読み取る力)
※主張について書かれている箇所が3箇所あるため、1箇所1点。

対象 6年生55名

以上のレディネステストの結果が以下の通りである。



この結果から説明的文章の文章構成を読み取る力は十分でないことがわかる。(問1)文章構成の読み取りが十分でないため、主題がどのようなことなのか(問2)や事例はどのような効果をあげているのか(問3)、筆者の考えはどのようなことなのか(問4)を読み取ることができず、全体的な点数が下がっている。筆者の言いたいことを読み取れている児童(問5で2点以上)が半数以下の41%になっていることも読み取りの弱さが原因と考えられる。日々の学習でも読み取りがしっかりとできないため、自分の考えをもち、書いたり話したりする学習では的外れな意見を出したり意見そのものを出せなかったりすることが多い。よって本単元では、「構造と内容の把握」に重点を置いて学習を進め、児童が筆者の主張に対して考えをもてるようにしていきたい。

問5では100字の作文という形の問題にしたが、点数が取れていない児童の中には未記入や短文での解答になっている児童も少なくない。本学年の児童は「書く」という活動に対して抵抗があったり書き方がわからなかったりする児童が多く、「書く」というだけで意欲が下がり、主体的に取り組むことが難しくなってしまう。本単元では、「書く」活動による意欲の低下を抑えるためにワークシートを工夫して学習を進めていく。

5. 単元について

本単元は、小学校学習指導要領(平成29年告示)国語編 第5学年及び第6学年に記載されている次のことを扱っている。

【知識及び技能】

(2) ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

【思考力・判断力・表現力等】C 読むこと

(1) ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

本教材では、「筆者の主張と事例の関係を捉える力を育むこと」をねらいとしている。主張とそれを支える事例の關係に着目しながら、それぞれどの段落に書かれているかを確かめながら読み進め、主張が「初め」と「終わり」にある双括型の文であることや「中」に主張を支える事例が示されている構造について理解を深めることで筆者の意図に迫らせたい。「児童の実態」に記載した通り、本学年の児童は読む力自体が十分でなく、それを原因とした自分の考えをもつことが難しい児童が多いという実態を受けて、本学習では「構造と内容の把握」「精査・解釈」の段階を丁寧に進めることで児童が叙述から筆者の意図を読み取ったり、他者との考え方の違いや自分の考えを文章に表したりする力を身に付けていくことを目指していく。

また、本教材は「笑うから楽しい」と「時計の時間と心の時間」の2教材で構成された説明的な文章の単元である。単元扉には、「主張と事例の関係をとらえ」という目標が示されているが、主張を支える事例を挙げることで読み手の理解を助け、主張に説得力をもたせていることに実感を伴っていない児童が多い。これまでの生活の時間的感覚や経験を振り返る時間を多く確保して、実感をもてるように工夫していきたい。筆者の主張や事例を用いた意図について話し合ったり、考えを伝え合ったりする対話場面では“何を何のために交流するのか”を明確に示し児童が学習の見通しをもてるように工夫をする。

6. 研究主題に迫るための手立て

(1) 確かな知識・技能の習得

- ・「笑うから楽しい」「主張と事例」の活用

単元の導入で扱う練習文「笑うから楽しい」は「時計の時間と心の時間」と文章構成が同じであり、筆者の主張を支える事例が「中」にあることも同様なため、1，2時での学びを本文で効果的に活用していくことができる。併せて「主張と事例」を単元導入時に学習し、単元全体の目標が「主張と事例の関係をとらえること」であることを理解させた上で指導に取り組む。

(2) 単元構成の工夫

- ・児童自身が学習計画を立てる

「笑うから楽しい」の練習文を学習し、「時計の時間と心の時間」の本文の学習に入る際、改めて本単元の目標と教科書P62「見通しをもとう」を確認し、学習計画を立てる。児童自身が立てた学習計画で単元を進めていくことによって主体的に学習に取り組み、目標を意識して課題に取り組めると考える。

- ・ワークシートの活用

書くことを苦手としている児童が多いことから、まず読むことに意識をしっかりと向けさせるため、課題が明確なワークシートを作成し、活用していく。数パターンのワークシートを提示し、児童の実態や意向に合わせて活用させることで、一人一人が意欲的に学習に取り組めるように配慮する。また、単元全体で統一された振り返りシートを活用することで児童の学習の理解度を教師が把握し、次時に生かせるようにする。

(3) 学びを深めるための工夫

- ・ICTの活用

本文中の事例を実際に体験できるようにICTを活用する。また、事例を体験した感想をアンケート機能で共有することで学級の事例に対する捉え方を可視化し、事例の効果を実感しやすくする。

- ・グループ設定・活動

単元の学習に入るまでに取り組んだレディネステストの結果をもとにグループ編成を行い、単元を通して学び合いができるようにする。グルーピングは点数や記述した内容を基準として、3人1組（読み取れている・中間・読み取れていない）で行う。得意な児童にとっては他者の考えを聞くチャンスになり、苦手な児童にとっては考えをもつための助けとなる話が聞けるようになると考えられ、結果的に学級全体の理解が深まっていくことを狙いとする。

7. 単元の指導と評価の計画

時	目標◆・学習内容	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準 <評価方法>
1	◆「笑うから楽しい」の文章の構成を捉え、筆者の主張をまとめることができる。				
	・説明的な文章の筆者の主張や意図を捉え、それに関する自分の考えを発表するという学習の見通しをもつ。 ・「笑うから楽しい」を読み、文章全体や筆者の主張を捉える。	①			◎文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。 <発言・記述>
2	◆「笑うから楽しい」に取り上げられている事例の内容をまとめ、主張に対しての考えが書ける。				
	・「中」の文の内容をまとめ、筆者の主張との関係を捉える。 ・「笑うから楽しい」の筆者の主張に対しての自分の考えを書く。		①	①	◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。 <記述> ◎進んで主張と事例の関係を捉えて読み、学習課題に沿って自分の考えをまとめて発表しようとしている。 <発言・観察>
3	◆「時計の時間と心の時間」の学習の見通しを基に学習課題を設定し、学習計画を立てられる。				
	・「時計の時間と心の時間」を読み、学習の見通しを基に学習課題と学習計画を立てる。			②	◎単元の学習目標を理解し、達成に向けて学習計画を立てている。 <発言・観察>
4	◆文章全体の構成を理解し、叙述を基に、筆者の主張とそれを支える事例を捉えられる。				
	・文章全体の構成を確認し、筆者が定義する「時計の時間」と「心の時間」を確かめる。 ・筆者の主張を読み取る。		①		◎「読むこと」において、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。<記述>
5 6	◆事例が書かれている段落の内容をまとめ、それぞれの事例について自分の経験を想起できる。				
	・それぞれの事例について、内容をまとめる。 ・実際に実験を行い、ICTのアンケート機能でクラスの結果を確かめる。 ・自分の経験を振り返り、事例に近い経験を出して共有する。	②	③		◎原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 <記述> ◎「読むこと」において目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 <記述>

7 本 時	◆筆者の主張とそれに対する自分の考えを、自分の経験を踏まえてまとめることができる。			
	・考えをまとめ方を教師の例示から知る。 ・筆者の主張に対する自分の考えを事例の体験や経験を交えて書く。 ・グループで書いたことを伝え合い、それぞれ挙げた事例に対しての自分の考えを伝える。 ・グループで交流して出た意見をもとに考えをまとめる。		②	◎「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 ＜記述＞
8	◆筆者の主張に対する自分の考えを伝え合い、考えを広げたり深めたりできる。			
	・自分の考えを発表し、互いに感想を伝え合う。		③	◎筆者の主張に対する自分の主張を伝え合い、考えを広げている。 ＜発言・記述・観察＞

8. 本時の学習 (7/8)

(1) ねらい

筆者の主張とそれに対する自分の考えを、自分の経験を踏まえてまとめることができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ★評価 < > 評価方法
3分	○前時までに学習した筆者の主張や主張を支える事例との関係を確認する。 筆者の主張 人それぞれに「心の時間」の感覚がちがうことを意識することが大切である。 ○立てた学習計画から本時の学習内容を理解する。	※筆者の主張を再確認することで本時の目標に対してスムーズに取り組めるようにする。
	○本時のめあてを確認する。 筆者の主張に対して考えたことを自分の経験をふまえてまとめよう。	
5分	○筆者の主張に対する自分の考えの書き表し方を知るために教師の例示を分析する。	※どのような文を書けばいいのかを理解させる。
10分	○筆者の主張に対して、自分は共感する・納得した・疑問に思った等の意見をもち、根拠となる事例と経験を書く。	
15分	○書いた考えを伝え合う。また、聞いた根拠となる事例に対して自分の考えや経験を伝え合う。 C1「私は筆者の主張に納得しました。理由は、事例4をみんなでやってみた時にひとりひとり心地よいリズムが違うことを体験したからです。生活の中で人それぞれ好きな音楽が違うことも関係していると思います。」 C2「事例4をやってみた時にみんなの心地よいリズムが違うことに私も気付きました。私はAさんと同じ考えです。」 C3「確かに事例4をやった時は人によって差が出ました。でも心地よいリズムが違うことはその時の体調や心の状態も影響してくると思います。その時の体調や心の状態で心地よいリズムが違うことを確かめる実験もやってみたいと思いました。」	※事例に着目して伝え合う活動を行うことで多くの言葉が出るようにし、その事例に対してもつ考えや思い浮かべる経験が人によって違うことを体験させる。
10分	○グループで交流したときに出た意見を書き、「まとめ」の文を書く。	※グループ内で出た意見を書く活動に反映するよう指導する。 ★「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 <記述>

2分	○本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	
----	------------------------	--